

巻頭言

「環境制御」岡山大学環境管理センター報に寄せて

岡山大学長 高橋 克明

先般スペースシャトル「エンデバー」の中で、無重力下の諸実験に従事して来た毛利衛氏が、日本の子供達に対していわゆる宇宙授業を行なった様子が放映されました。そのなかで同氏が、暗黒の宇宙空間に対比して、大気と水に囲まれた青い地球の美しさを強調する場面がありました。

宇宙に存在する無数の天体のなかで、たまたま生物の発生や生存に必要な諸条件を備えた、この有難い美しい地球の環境が、現実には全体から見ても年々悪化しつつあるということに対する危機感は、今日では社会に広く浸透してきております。しかし少なくとも、グローバルな視点から見ると、その対応等はきわめて不十分としか申せぬ状態にあります。

たとえばフロンガスや炭酸ガスの問題を見ても明らかなように、危機の認識や指摘という消極的な対応はそう困難ではなくても、環境の保全さらには環境の育成助長という積極的な対応には、困難な問題や未解決の問題が山積しております。

人類の生存は、この地球の自然環境によって支えられていることは言うまでもありませんが、生活にしろ生産にしろ人間のなすことの多くは、それ自体が自然界を損うものであることは否定できません。かつて産業革命によって人類の生産活動が飛躍的に増進し、人口もそれに伴って急増の途を歩んできましたが、その当時の世界の人口は約8億であったといわれています。それが現在では55億でしかも1年当たり9,700万人ずつ増加しております。

この点を考えれば常に地球環境の受容能力の限界を認識し、それを越えることのないように自戒してゆく必要があります。さらにその能力を育成強化してゆく努力をすることが人類全体に課せられた大きな責務であります。これこそあらゆる英知を傾けて取り組んでゆかねばならぬ緊急の課題であると申せましょう。我々の日常生活や生産活動において、まず少なくとも自然環境を損なう廃棄物を自然界に排出しないようにするという事は、その第一歩であります。大学の使命とする教育・研究活動においても廃棄物が出るのは当然で

ありますが、その処理と排出について万全を期すための努力が常に必要であります。

岡山大学環境管理センターは平素から学内の有害廃棄物の処理や、排水の監視、ならびに啓蒙活動や指導助言の任に当り、宮々として地道な努力を重ねてこられました。ここにセンター長篠田純男教授をはじめ、センターの教職員ならびに各部門長や関係の教職員の方々の御努力に対し、あらためて深甚な敬意と感謝の意を表する次第であります。

かねてから念願としてきた環境管理施設の省令化のみならず、老朽化した設備の更新や拡充すら、今日の国の財政事情からは困難な点も多い状況にあります。それだけに同センター関係者の方々の御苦心と御苦勞も多いと思います。本学の教職員学生の皆さんが、廃棄物の処理と排出は基本的には個々人の責任にかかる問題であることを常に御自戒戴き、センターの役割と日常的業務の遂行に関し、深い御理解と御協力を戴けるよう願ってやまぬ次第であります。